検査から胃がん、食道がんを診る

国際医療センター　消化器内科
新井　晋

１．はじめに

病院や検診で受ける検査には様々なものがあります。採血、尿検査、心電図、レントゲン、バリウム検査。こうした検査の中で病気そのものの姿・形を映し出すことで病気を発見したり、病気の状態を調べる検査を、画像診断と呼びます。画像診断にはレントゲン検査、バリウム検査、CT 検査、内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）などがあります。画像診断はがんの発見に有効な手段ですが、今回はその中で胃や食道の病気の診断に有効な内視鏡検査を中心に、最新の診断方法や検査から見た疾患、とくに胃がんについて、また食道癌についても解説します。そして最近注目されている体に負担の少ない内視鏡治療法についてお話していきます。

胃腸の事を医学用語では消化管と言います。消化管のうち食べ物の入り口である口に近い部分を上部消化管とよび、食道・胃・十二指腸が含まれます。上部消化管は色々な病気が起こる臓器ですが、とくに重要なのはやはり胃がんなどの悪性腫瘍でしょう。このようにがんが起こりやすい上部消化管ですが、幸いなことに、先人達の努力により、簡単にしかも詳しく検査することができる臓器となっています。

２．この病気について

胃がんは、かつては癌死亡の第一位をしめていましたが、いまは肺がんについで二番目に多い癌となっています。しかし高齢者人口の増加により胃癌の死亡数自体は減少しておらず、ここしばらくは胃癌の罹患率は増加するものと推

測されています。

進行したがんになれば完治率は低下します。そこで検査を有効活用して病気を早い段階で発見するよう努めることが大切です。

食道がんは近年増加しており、飲酒や喫煙に関係して発症することが多いがんです。また最近では欧米に多いとされる食道炎に伴う食道がんもみつかって来ています。進行した状態で見つけられることが比較的多い食道がんですが、発見がむずかしい初期の食道がんをどうやって見つけるかが課題です。最近登場した特殊光観察法（NBI 法）や 80 倍にズームアップする拡大内視鏡は食道がんや胃がんの発見に非常に有効と考えられます。

３．診断について

胃がんや食道がんの診断に中心となるのは内視鏡検査やバリウム検査などの画像診断です。上述のような最新の検査法や苦しくない検査も出てきています。

４．治療について

初期の胃がんや食道がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という治療方法が日本で 10 年ほど前から開発され今では確立した治療法となりました。これはお腹や胸をメスで開くことなく、内視鏡を使ってがんの部分だけを内側から切除する方法です。私たちはこの内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）に早くから取り組み、当院の内視鏡診断治療部門では ESD を中心とした内視鏡的治療にとくに力をいれています。進行した胃がんや食道がんに対しては外科切除が中心になり、化学療法や放射線治療などが行われます。

５．日常生活での注意点など

胃癌の予防には漬け物など塩分の多いものを減らし、生野菜、果物、お茶などを多く摂取しましょう。慢性胃炎や胃潰瘍などがある方、胃が痛い、重いなどの症状のある方はためらうことなく、検査を受けるようにしましょう。症状が無い方でも定期の検査が有効です。

食道がんは飲酒量が多い人、喫煙が多い人に起こりやすい病気です。多量の飲酒や喫煙は食道がんだけでなく、様々ながんの原因となるほか、肝臓、心臓、肺の病気の原因となります。減酒、禁煙を心がけましょう。熱い飲食物はさましてから口にしましょう。

６．相談窓口

埼玉医大国際医療センター消化器病センター外来にお問い合わせください。